

新年のご案内

〒567-0012 茨木市東太田二丁目九十二
浄土真宗 西福寺
本願寺派
〒567-0755 茨木市西宮五丁目三十二番
〒567-0755 茨木市西宮五丁目三十三番
〒567-0755 茨木市西宮五丁目三十四番

み光に照らされて、新年を迎えることができます。皆様には如何お過ごしでしょうか。新年のご案内を申し上げます。

がん たん え

元旦会

日時 一月 一日(祝) 昼一時

講師 本願寺中央講師



「一年の計は元旦にあり」。阿弥陀様の御前で、新年を迎える私の心を見つめたいものです。お屠蘇の振舞いや福引は、新型コロナウイルス感染防止のため中止いたします。

足利先生、兵庫県尼崎市、安養寺住職。教師として多くの死刑囚を看取られたご経験から阿弥陀様のお慈悲について分かりやすく熱くお話し下します。

足利孝之師

朝十時より、修正会(しゅしようえ)。上野門徒の皆さま、各世帯代表者一名ずつのご参拝をいただきます。

(シリーズ展11) 仏教の思想と文化 - インドから日本へ -

特集展示

仏像 ひな型の世界Ⅲ

過去2回開催した「仏像ひな型の世界」展の第3弾！江戸時代から平成まで15代にわたって系譜を連ねた京都仏師・畑治良右衛門が伝えてきた雛型420件のなかから、第1・2回ではご紹介できなかった雛型を中心に展覧します。

雛型は、大きな仏像を制作する前に、構造や木材の必要量を計算し、どのようにすれば効率的に制作できるかを考える縮小模型としての役割のほか、仏師にとっては様々なかたちで役立つものでした。また、ときには失われた彫像の姿を今に伝えてくれる存在でもあります。普段我々の目にふれることの少ない雛型を通して、江戸時代のゆたかな造像活動や仏師たちの息遣いを感じ取っていただけましたら幸いです。

2022
1/9(日)~2/13(日)
2/19(土)~3/21(月・祝)

龍谷大学
龍谷ミュージアム
RYUKOKU MUSEUM

本願寺御正忌報恩講 (ほんががじていしちゅうぎほうおんこう)

宗祖親鸞聖人、760回忌にあたる御正忌報恩講が、1月9日(速夜)から16日(満日)中(まんじつちゅう)まで7日夜にわたって本願寺・御影堂で営まれます。

宗祖のご祥月(しやうつき)命日を縁に営まれる本願寺最大の年中行事です。期間中、全国から僧侶・門信徒が多数参拝し、聖人の遺徳を偲ぶとともに、浄土真宗の信者として自覚を新たにします。

朝6時からお晨朝、10時から日中法要、昼2時から速夜法要、いずれも直接お越しになれます。ご参拝にあたり費用は特にかかりませんが、受付にて御佛飯料の進納にご協力ください。

なお、住職は1月9日(日)午後2時からの速夜法要に参拝する予定です。

※万一の場合は、住職携帯まで
(090-1071-4881)

毎月28日、昼2時OPEN! ぶっぴかり。

年忌表 (2022年)

1377	周年	昭和	37年
1378	周年	令和	3年
1379	周年	平成	28年
1380	周年	平成	29年
1381	周年	平成	30年
1382	周年	平成	31年
1383	周年	平成	32年
1384	周年	平成	33年
1385	周年	平成	34年
1386	周年	平成	35年
1387	周年	昭和	48年
1388	周年	昭和	49年
1389	周年	昭和	50年
1390	周年	昭和	51年
1391	周年	昭和	52年
1392	周年	昭和	53年
1393	周年	昭和	54年
1394	周年	昭和	55年
1395	周年	昭和	56年
1396	周年	昭和	57年
1397	周年	昭和	58年
1398	周年	昭和	59年
1399	周年	昭和	60年
1400	周年	昭和	61年
1401	周年	昭和	62年
1402	周年	昭和	63年
1403	周年	昭和	64年
1404	周年	昭和	65年
1405	周年	昭和	66年
1406	周年	昭和	67年
1407	周年	昭和	68年
1408	周年	昭和	69年
1409	周年	昭和	70年
1410	周年	昭和	71年
1411	周年	昭和	72年
1412	周年	昭和	73年
1413	周年	昭和	74年
1414	周年	昭和	75年
1415	周年	昭和	76年
1416	周年	昭和	77年
1417	周年	昭和	78年
1418	周年	昭和	79年
1419	周年	昭和	80年
1420	周年	昭和	81年
1421	周年	昭和	82年
1422	周年	昭和	83年
1423	周年	昭和	84年
1424	周年	昭和	85年
1425	周年	昭和	86年
1426	周年	昭和	87年
1427	周年	昭和	88年
1428	周年	昭和	89年
1429	周年	昭和	90年
1430	周年	昭和	91年
1431	周年	昭和	92年
1432	周年	昭和	93年
1433	周年	昭和	94年
1434	周年	昭和	95年
1435	周年	昭和	96年
1436	周年	昭和	97年
1437	周年	昭和	98年
1438	周年	昭和	99年
1439	周年	昭和	100年

2022年は、上の年に亡くなった方々の年忌に当たります。盛大であるに越したことはありませんが、さすがにかつても真心のこもった法要(法事)を勤めたいものです。

法要は、命日に勤めることが理想ですが、都合で、日・月・年が前後にずれることがありますが、構いません。

法要を勤めるにあたっては、まず日程を住職にご相談ください。日取りが決まったら、親戚知人にも通知を出し、前日までにお仏壇をきれいに掃除し、お供物やお花、お香などを買ひ替え、心をこめて準備いたしましょう。

そのほか、ご不明な点は何なりと住職までお尋ねください。(西福寺:072-622-3725)

※左の点線部分で切り取って『真宗教団連合2022年法語カレンダー』の台紙に貼ってご利用下さい。
※早い・きれいなエコー・寺報メール便のお申し込みは、こちらまで sai@fukujibunbini.com

西福寺は創建 400 年。
元和6年(1620) ▶ 令和2年(2020)



二月のご案内

〒567-0012 茨木市東太田二丁目九十三
浄土真宗 西福寺
本願寺派
TEL 0726-337511 FAX 0726-33751

鉛色の雲の切れ間から差し込む日差しがぬくもりに、ほっと一息つく思いです。
令和四年二月のご案内を申し上げます。

第二百九十五回

人生講座

日時 二月十三日(日) 昼二時〜四時
講師 本願寺派布教使

松村秀方師



■松村(まつむら)先生、五十三歳。東大阪市足代北、明専寺住職。元浄土真宗本願寺派総長、松村了昌師のご子息です。布教使課程の同期ですが、深い学識とともに、人を惹きつける語り口で、明るい気持ちで聴聞することができます。
■お誘いあわせの上、こぞってお参り下さい。

愛唱歌について

浄土真宗本願寺派では、2023(令和5)年に親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要をお迎えします。愛唱歌は、この法要を機縁に、「世の中安穩なれ」と願われた親鸞聖人の教えを依りどころとし、自他共に心豊かに生きることのできる社会の実現に向けた取り組みの一環として制作されました。

「世代を超えて長く広く親しまれ、皆が一緒に歌って元気になる」という内容で歌詞の公募が行われ、宗門内外から寄せられた1262点もの作品の中から『みんな花になれ』(詞・山口タオさん)が最優秀賞を受賞、加藤登紀子さん(歌詞審査委員会委員長)の作曲による愛唱歌が誕生しました。

※CD「みんな花になれ」のご購入は、本願寺出版まで。価格1100円(税込み)
01200・464・583(受付時間:平日朝9時〜夕方5時)

第71回 社会を明るくする運動 イオンモール 茨木矯正展

刑務所作業製品展示即売会

とき 令和4年2月26日(土)・27日(日)
10時〜19時

ところ イオンモール茨木 1階ジョイプラザ
茨木市松ヶ本町8-30 (JR茨木駅・大阪モノレール宇野辺駅から徒歩7分)



刑務所作業製品とは

全国の受刑者が社会復帰に備え、丹精込めて制作した商品です。タンス、テーブル、枕カバー、革靴、ベルト、バッグ、エプロン、石鯨、折り紙、おもちゃなど…大型家具からかわいい小物まで、種類豊富にご用意しております。

西福寺は創建 **400** 年。
元和6年(1620)▶令和2年(2020)



毎月28日、昼2時OPEN! ぷっぷかF1。

浄土和讃に聞く ③4

◆妙土広大超数限

本願莊嚴よりおこる
清浄大摂受に
稽首帰命せしむべし

『浄土和讃』(注釈版562頁)

「ヨーロッパに幽霊が出るー共產主義という幽霊である」という書き出しで始まる「共産党宣言」は、産業革命によってもたらされた経済発展の恩恵が一部の資本家に限られ、社会の格差が広がっていくことに不満を募らせた労働者たちの絶大な支持を得ました。際限なく利益を追及することが肯定される資本主義を克服して、より平等で公正な社会の実現を目指す革命運動のよりどころとなったのです。20世紀初頭、激しい闘争を経て、ソビエト連邦や東欧諸国などの社会主義国家が相次いで誕生しました。ところが、これらの国々では、国家による管理を正当化し、個人の自由意思が制限されたため、やがて最高指導者の意志が国家そのものの意思とみなされるようになります。抑制と均衡が働かなくなった権力は腐敗し、経済は著しく停滞しました。20世紀の終わりには、ほとんどの社会主義国家が姿を消すことになりました。大きな実験は、多大な困難と犠牲の末に挫折しました。資本主義が勝ったとはいえず、世界では今日、3人に1人が貧困状態にあると言われます。世界で最も裕福な8人が、貧困にあえぐ38億人分と同じ資産を所有しているというのです。産業革命以来の社会の格差は、小さくなるどころか加速度的に大きくなり、未来を危うくしています。どれほど巨大な権力や莫大な財産を手にしても、多くの人々が見捨てられ苦しむざるをえない現実には、人間の根源的な愚かさを思い知らされます。

▼阿弥陀仏のすばらしい浄土は広大で限りなく、本願に誓われた通りにうるわしくかざられている。清らかなはたらきであらゆるものを摂め取る清浄大摂受に、礼拝し帰命するがよい。

三月のご案内

〒567-0012 茨木市東太田二丁目九一二一
浄土真宗 本願寺派 西福寺
TEL 075-375-5555 FAX 075-375-5555

月かげのいたらぬ里はないので、お月見をしない人の心にもすでにいたり届いています。
令和四年三月のご案内を申し上げます。

第二百九十六回

人生講座

日時 三月十三日(日) 昼二時〜四時

講師 本願寺派布教使

保田正信 師



■保田(やすだ)先生、四十一歳。高槻市下田部、一念寺副住職。大阪の在家出身、龍谷大学大学院実践真宗学研究科で学ばれ得度。平成25年、豊中市に念仏道場桜蓮寺を建立。仏法を分かりやすく説いておられます。令和三年一念寺に入寺。龍谷大学宗教部勤務。フリーペーパーののさまライター兼イラストレーター。直七大学講義担当。

春季彼岸会

* * *

西福寺仏教婦人会3月の例会は、毎年落語家の桂文福さんご一行をお招きし、彼岸会(ひがんえ)寄席をお楽しみいただいておりますが、昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえ、誠に残念ながら中止といたします。
法要のみ実施。有縁の皆さま、ぜひご参拝ください。

日時: 3月18日(金) 午後2時
場所: 西福寺本堂



子どもたちの笑顔のために — Dāna for World Peace —

キャッシュレス募金

あなたの想い
貧困で苦しむ
国内外の子どもたちに届けます

皆さまのご支援が、子どもたちが笑顔で未来を描ける環境づくりの大きな力となります。

電話でのお問合せ: 075-371-5181

受付時間: 月曜日〜金曜日 9:00〜17:00 (祝日除く)

mailto: project@hongwanji.or.jp

浄土真宗本願寺派重点プロジェクト推進室

キャッシュレス募金専用ページはこちらから▶



毎月28日、昼2時OPEN! ふっふふ!

西福寺は創建 400 年。
元和6年(1620) ▶ 令和2年(2020)



浄土和讃に聞く

35

◆自利利他円満して

帰命方便巧莊嚴

こころもことばもたえたれば
不可思議尊を帰命せよ

『浄土和讃』(註釈版562頁)

お釈迦さまが長い修行の末、ついに悟りを開こうときれている時、悪魔たちが最後の攻撃を仕掛けたと伝わっています。お釈迦さまが目指す悟りなど存在せず、そのための修行も無駄であると非難する輩がいます。また、世間の無理解に抗うより、愛欲に溺れて自分自身を慰めるよう誘惑する者がいます。名利を勧めたり、恐怖を与えたりとありとあらゆる手段を用いて妨害を試みたのです。悟りに至るための禅定が、あとどれくらい続くのか見通せず、精神的にも肉体的にも極限状態に置かれた者にとって、まさに最後にして最大の試練です。「私ほど努力したものはいない」「私の知り得た境地など、誰も理解できない」普遍の真理に到達しようとする者からすれば、時代や社会の束縛を束縛とも思わず安住している人々との埋めがたい距離に絶望するのでしょうか。

親鸞聖人は、自利利他円満について「自利は、阿弥陀の仏になりたまひたる意。利他は、衆生を往生せしむる意。円は善悪すべて分かず、善きことになしてましますこころの満ちたる意なり。自らも仏になり、衆生も仏になることを円満すといふなり(国宝本左訓)」と示されました。お釈迦さまを襲った悪魔とは、自他を分け隔てる自分自身の心の隙間に他ならなかったのです。今を去ること二千五百年前の十二月八日、明けの明星が輝く頃、お釈迦さまはついに悟りを開かれました。

▼自利と利他の功德がまどかに満ちて、あらゆるものをさとりに導く巧みなはたらきをそなえた浄土に帰命したてまつる。思いはかることも言葉に表すこともできないので、不可思議尊に帰命するがよい。

四月のご案内

〒567-0012 茨木市東太田二丁目九一二
TEL 075-371-5181 FAX 075-365-6199
浄土真宗 本願寺派 西福寺

いかなる理由があろうとも、人命を軽視し、武力で一方的に現状を変更しようとする暴力的な行為に抗議し強く反対の意を表します。
令和四年四月のご案内を申し上げます。

第二百九十七回

人生講座

日時 四月十日(日) 昼二時～四時
講師 本願寺派布教使

佐々木義信師

■佐々木(ささき)先生、七十三歳。堺市堺区新在家町、圓龍寺住職。二十年にわたり、教誨師、篤志面接委員として大阪医療刑務所で活動。今春よりご自坊にて子供食堂を開設。門前の小学校に通う子どもたちとのつながりを大切にされています。

■お誘いあわせの上、こぞってお参り下さい。



浄土真宗本願寺派では、ロシアの軍事侵攻により避難生活を余儀なくされているウクライナの人々を支援することを目的に、緊急に「たすけあい運動募金」において標記募金の募集を開始いたしました。

「ウクライナ緊急支援募金」

1. 浄土真宗本願寺派 たすけあい運動募金「ウクライナ緊急支援募金」
2. 郵便振替 01000-4-69957 加入者名 たすけあい募金
銀行振込 ゆうちょ銀行一〇九店 当座 0069957 たすけあい募金
※通信欄に「ウクライナ緊急支援」とご記入ください。
3. 受付期間 2022(令和4)年3月10日(木)から当分の間
4. 問い合わせ先 〒600-8501 京都市下京区堀川通花屋町下ル本願寺門前町
浄土真宗本願寺派伝道本部社会部<災害対策担当>
TEL: 075-371-5181(代表) FAX: 075-365-6199

毎月28日、昼2時OPEN!ふっふかぴ!

花まつり

●4月9日は、「花まつり」です。

『花御堂』を飾り、甘茶をかけてお釈迦さまのご誕生を祝います。あなたも、お友達をさそって、お参りください。みんな、素直な、良い子になりますように！

* * *



■昼2時から法要(15分程度)。夜7時まで、お参りできます。

■先着30名の方には粗供養を呈呈。
※花まつりパレードは中止。

場所：西福寺本堂

西福寺は創建 400 年。
元和6年(1620)▶令和2年(2020)



◆神力本願及満足

明了堅固究竟願
慈悲方便不思議なり
真無量を帰命せよ

『浄土和讃』(註釈版563頁)

高槻市東五百住の行信教校で仏教を学んでいた頃のことです。講師の騰瑞夢先生は「法乳」のご法話をよく聞かせてくださいました。阿弥陀仏と衆生の関係を母親と乳飲み子にたとえてお話になります。母乳には、生まれつきの力の子供にとつて必要なものが、すべて備わっていると云うのです。体が小さく力が弱くても、欲しい時に欲しいだけ飲むことができます。熱すぎず冷たすぎず、温もりを感じ、安らぎを得ることができます。「南无阿彌陀佛」の番号は、私たちにとつて阿弥陀仏がくださる母乳のようなものです。十月十日、自らの体内に命を宿し、激しい陣痛の痛みを耐えて生まれた我が子を愛おしく思うのが、母親としての自然な感情と言えらるでしょう。我が子の健やかな成長を願い、どれほどの苦勞も厭わぬとの決意が、女性を母親にします。はるか昔、法蔵菩薩は十方世界のすべての衆生を必ず救うとの誓いを立てられ、果てしない時をかけて苦しみ、悩み抜かれた末、ついに阿弥陀仏となるのです。名号に込められた深い思いを信じきれず、自力のはからいを捨てきれぬ者でさえ、浄土のすぐれたはたらきは、衆生を満足せしめ、成長させ、必ず仏果へと至らしめるのです。▼浄土のすぐれたはたらきは本願に誓われた通りであり、その願いは、すべてのものを救い取る願いであり、間違いない明らかな願いであり、決して壊れることのない願いであり、必ずとげられる願いである。慈悲みのころからさとりを開かせるはたらきは、思いはかることができない。限りない真実のはたらきを備えた真無量に帰命するがよい。

五月のご案内

〒567-0012 茨木市東太田二丁目九-三二
浄土真宗 本願寺派 西福寺
TEL:072-533-1175 FAX:072-533-1176

まだおぼつかない足取りの子どもたちが、大きなランドセルを背負って、上級生からはぐれないよう脇目もふらず懸命に小学校を目指します。
令和四年五月のご案内を申し上げます。

永代経法要厳修

日時 五月十四日(土) 昼二時

十五日(日) 朝十時

講師 本願寺派輔教・行信教校講師

山本 攝叡 師

■永代経は、「亡き人をご縁として、ご先祖から伝えて頂いた尊い仏法を、永代にわたり」伝えていくため「仏法聴聞の殿堂としてのお寺を護持して(管純和師著「仏事の小箱」より)「いこうと願われる方々によって営まれる法要です。」
■お誘い合わせの上、ご参拝下さい。

ブツダのお弟子さん
Tales of Buddhist Saints
教えをつなぐ物語
2022 4/23 Sat. 6/19 Sun.
龍谷大学 龍谷ミュージアム RYUKOKU MUSEUM

●龍谷ミュージアム春季特別展

西暦前5世紀頃、ブツダとなって仏教教団を誕生させたガウタマ・シッダールタ(釈尊)は、ガンジス川中流域でその思想を広めました。釈尊の活動を支え、教えをつないだ弟子たちのすがたは、仏教経典の中に物語となって伝えられています。本展では、釈尊を支え最も活躍した10人の直弟子(十大弟子)や、釈尊の涅槃の時に後を任された16人の高弟(十六羅漢)をはじめとする出家者、そして在家信者らそれぞれの個性や生活の一端に注目します。彼らのすがたを、インドや中国、日本などに受け継がれた絵画や彫刻、仏教経典を通して紹介します。

永代経に向けて(お願い)

毎回、世話役の方々が中心となって準備して下さいますが、どなたでもお手伝いいただけます。お手すきの門信徒の皆さま、ご協力のほどよろしくお願い致します。

■5月13日(金)午後7時〜於西福寺本堂
おかざり(供物をそなえつけます)



毎月28日、昼2時OPEN!ふっふかふ!

西福寺は創建 400 年。
元和6年(1620)▶令和2年(2020)



浄土和讃に聞く

37

◆宝林・宝樹微妙音

自然清和の伎楽にて
哀婉雅亮すぐれたり
清浄楽を帰命せよ

『浄土和讃』(註釈版563頁)

「秋来ぬと 目にはさやかに 見えねども 風の音にぞ 驚かれぬる」平安時代の歌人、藤原敏行が詠んだこの歌は、現代でも猛暑の毎日にささやかな涼をもたらししてくれます。暑さは少しも変わらず、むしろ勢いを増すくらいだけど、いつか必ず和らぐだろう。涼しい秋の訪れを待ち遠しく思う一方で、過ぎゆく夏に一抹の儚さを感じ、愛おしささえ感じさせます。庭の木々が風を受けてざわめいたのでしょいか。池の水面に立つさざ波を見たのでもなく、自らの頬で感じたのでもなく、耳で聞き取りハッと気づいたのです。ああ秋なんだと。

阿弥陀仏の浄土の木々は、風を受けて、心地よく素晴らしい音楽のような音色を奏で、人々の迷いの心を清らかにしていくのだと言います。音は木々より発せられています。発せしめたのは風のはたらきです。木々自身はからうことはなく、すべては風だのみです。色もななく形もない風が木々の間を吹き抜けた時、あらゆる人々を悟りへと導くこの上ない音楽として聞こえてくるのです。自力のこころを振り捨てて我れに任せよとの阿弥陀仏の願いこそ真実であったと誰もが気づいていくのです。浄土の風は私たちの中にも吹きおよんでいて、私たちの口を通して「南无阿彌陀佛」のお念仏の声として発せられます。それは私たちに往生成仏という真実を知らしめる音色です。
▼浄土の樹々が奏でる音はおのずから清らかに調和した音楽であり、そのやさしくうるわしい音色はあらゆる音楽に超えすぐれている。

六月のご案内

〒567-0012 茨木市東太田二丁目九三二
TEL 0726-3335 FAX 0726-3337
TEL 0726-3335 FAX 0726-3337
浄土真宗 西福寺
本願寺派

ふと、山に分け入ると、たくさんの鳥たちが楽しげに呼び掛けてくれます。皆様には如何お過ごしでしょうか。
令和四年六月のご案内を申し上げます。

第二百九十八回

人生講座

日時 六月十二日(日) 昼二時〜四時
講師 本願寺名誉侍真・本願寺派布教使

近松 真定 師



■近松(ちかまつ)先生、四十四歳。八尾市久宝寺御坊、顕証寺住職。顕証寺は、浄土真宗中興の祖として知られる第八代宗主蓮如上人が開基で、歴代住職は本願寺を護持する重責を担ってこられました。常にまっすぐ宗祖・親鸞聖人を見つめられ、行動される謙虚で清々しい先生です。

■お誘いあわせの上、ごぞつてお参り下さい。

茨木東組聖跡巡拝バスツアー参加者募集。

* * *

茨木東組(いばらきひがし組)では、長らくコロナ禍で実施を見合わせておりました聖跡巡拝を、このたび日帰りバスツアーとして企画しました。堺別院(堺市)と尾崎別院(阪南市)に参拝し、大阪における浄土真宗興隆の歴史を学び、あわせて組内の親睦を深めたいと存じます。

実施日:令和4年7月5日(火) 朝9時、阪急茨木市駅(西口) 出発↓本願寺堺別院参拝↓

昼食(穴子料理)↓本願寺尾崎別院参拝↓浪花酒造見学↓夕方5時頃、阪急茨木市駅到着

参加費:5000円(定員になり次第締め切りとさせていただきますので、お早めにお申込ください)



ご参拝、有難うございました。

西福寺永代経

3年ぶりに新型コロナウイルス感染症にともなう緊急事態宣言が出ていない永代経となりました。引き続き、感染防止対策として堂内の換気を徹底した上で、1日目夜7時から初夜法要を中止。2日間2座のみとし、近在寺院からのご参勤は辞退したものの、上野門徒の皆様はまに莊嚴や受付等のご協力をいただき、ごきごきご執り行わせていただきました。

ご講師の山本先生は、お念仏は、はからいの世界に生きる私たちをそのまますくうと願われた阿弥陀仏の呼び声なのですと、お説きくださいました。

皆さまのご参拝、ご厚志、誠に有難うございました。

西福寺住職

毎月28日、昼2時OPEN!ふっふかF1。

浄土和讃に聞く

38

七宝樹林くににみつ

光耀たがひにかがやけり
華菓枝葉またおなじ
本願功德聚を帰命せよ

『浄土和讃』(註釈版563頁)

雨上がりの午後、西日が街路樹に当たり、濡れた枝葉をキラキラと輝かせているのを見ると、清々しい心地になります。土ぼこりが洗い流され、しなびていた葉がピンと生気を取り戻していきます。それを祝福するかのようには大きな虹が東の空にかかります。まもなく陽は傾き、虹も木々のきらめきも幻のごとく消えてしまいますが、あまりにも神々しい光景に時のたつのも忘れて見入ってしまいます。

私たちの住む世界は、時折、底が抜けることがあります。今日と変わらぬ明日が訪れるだろうと思っても、不慮の事故や不治の病、戦争や大災害によって、何の前触れもなく家族は引き裂かれ、大事なものも一つとして守るすべがありません。「一寸先は闇」という言葉を誰が否定できるでしょうか。

愛する人を助けることもできず、自分自身できえ思いもよらない最期を迎えたとしても、私たちの命の行き先は、真つ暗な絶望の世界ではないのです。阿弥陀仏に救われ、阿弥陀仏の願いを自らの願いと、阿弥陀仏の喜びを自らの喜びと感ずることができると、全てのいのちがキラキラと本来の輝きを放っている光の世界です。雨上がりの午後の一瞬のきらめきは、思うにまますたらず途方にくれる私たちを励まし、進むべき道を指し示す阿弥陀仏の手立てのように感じるので。

▼浄土には七つの宝でできた樹々が満ちあふれ、それらの放つ光は互いに美しく輝いている。花や実や枝や葉もまた同じようである。本願に誓われたあらゆる功德をそなえている本願功德聚に帰命するがよい。

西福寺は創建 400 年。
元和6年(1620)▶令和2年(2020)

